

(5) 東 海



東海地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

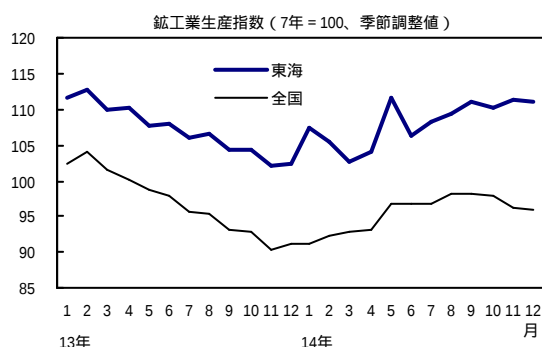
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 14 年 11 月）	今回（平成 15 年 2 月）	
鉱工業生産	増加傾向	増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

輸送機械は、自動車の国内向けが一部小型車で動きが続いていることに加え、米国を中心とする輸出向けが好調で全体をけん引する動きも続いていることから堅調に推移している。一般機械は、金属工作機械では輸出向け、国内向け共に自動車関連が動いているものの、土木建設機械が公共工事等の減少等により低迷するなど、全体では横ばいとなっている。電気機械は、家電や電子計算機・同関連装置が弱含んでいるものの、半導体集積回路ではメモリ等がデジタルカメラ需要などに支えられ増加傾向となっていること等から、全体では堅調に推移している。窯業・土石は、陶磁器の生産が低調であり、ファインセラミックスも横ばいとなっていることから、全体でも横ばいとなっている。化学は、自動車向けのプラスチック等を中心に動きがみられ、全体でも底固く推移している。



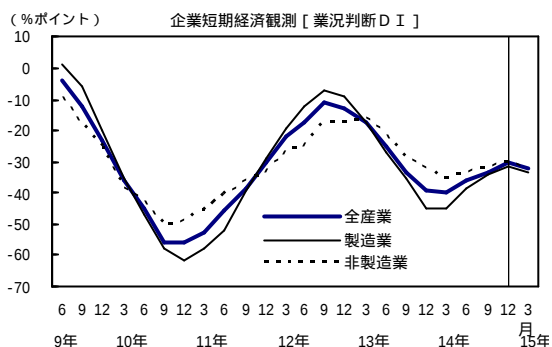
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
輸送機械	30.3	0.7	3.6	1.9	▲10.1
一般機械	11.4	5.0	▲4.5	▲1.0	▲1.7
電気機械	11.2	4.8	1.8	1.1	26.3
窯業・土石	7.3	▲0.2	5.0	7.7	▲7.5
化学	5.7	7.5	▲2.3	▲0.4	0.2
鉱工業	100.0	1.9	1.4	2.0	0.2

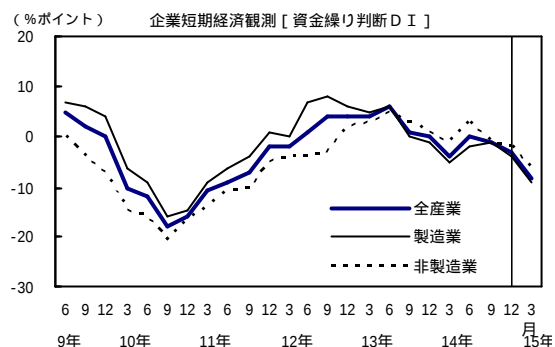
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

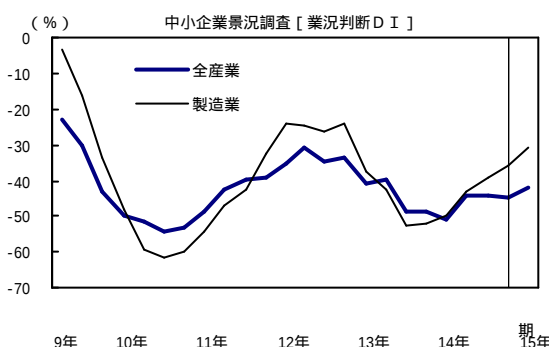
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。
中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

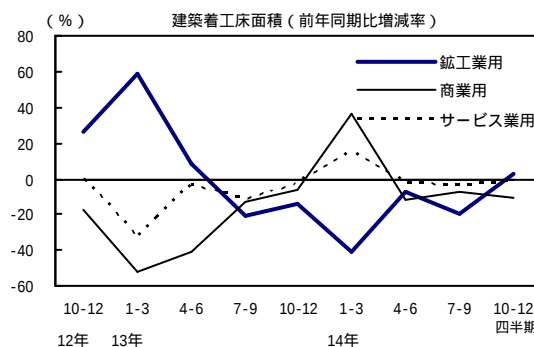
「自動車関連以外は仕事が少なく、仕事がある自動車関連からも10%程度の値引要請がある状況である (輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)		
	13年度実績	14年度計画
全産業	▲ 6.5	▲ 0.8 [▲ 1.4]
製造業	5.2	0.8 [0.1]
非製造業	▲ 14.6	▲ 2.1 [▲ 2.7]

(備考) []は前回 (9月) 調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

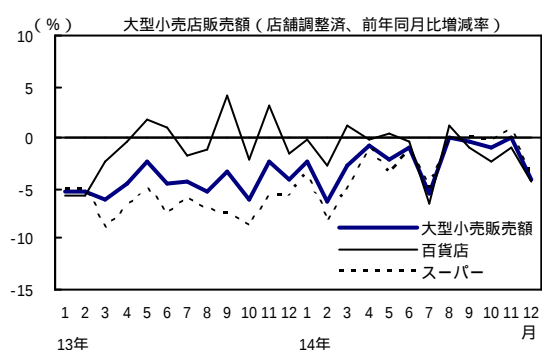
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月は衣料品が婦人服・子供服・洋品を中心に低調だったこと等から前年を下回った。11月は、歳暮商戦の前倒し等から飲食料品は前年を上回ったものの、衣料品が引き続き低調で全体では前年を下回った。12月は、ブランド品などの身の回り品が好調で前年を上回ったものの、衣料品全体では引き続き前年を下回り、飲食料品も低調であったことから、全体でも9月から4か月連続で前年を下回った。

スーパーは、11月には気温が低めに推移したこと等からコートなどが好調で、衣料品が前年を上回った。また飲食料品も期間を通じて底固く推移したこと等から、10～12月期にはマイナス幅が縮小するなど、やや持ち直す動きが続いている。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「福袋やクリアランスセールへの客の反応はよく売上も増加するが、セール終了後にその反動が来て全体の売上は前年並みになっている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

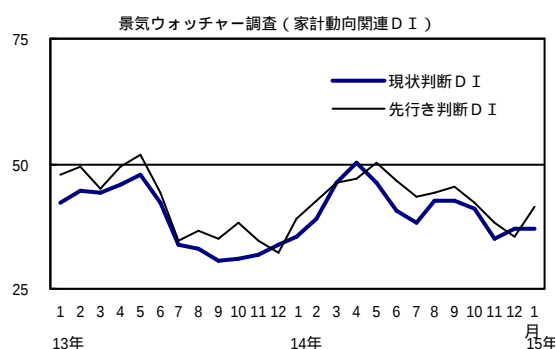
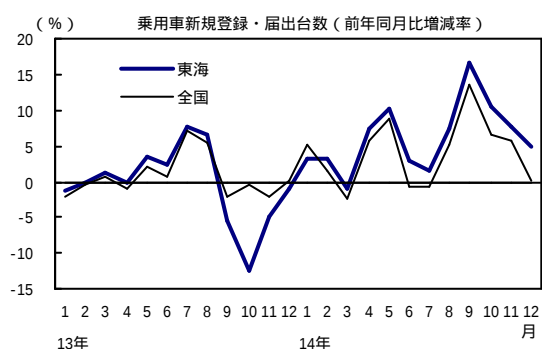


(前年同期比増減率、単位: %)

	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	▲3.7	▲1.3	▲2.2	▲1.8
百貨店	▲0.4	0.0	▲2.8	▲2.7
スーパー	▲5.6	▲2.0	▲1.8	▲1.3
乗用車	1.5	6.5	8.6	7.7
景気ウォッチャー	40.2	45.8	40.8	37.6

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済、中部地区の値。

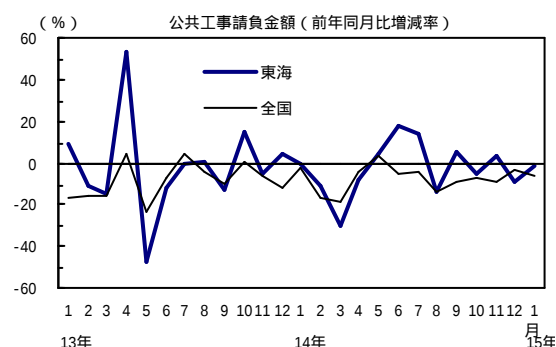
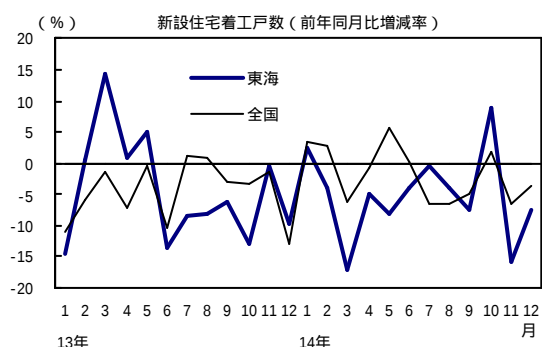
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家を中心に前年を下回っていることから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を上回っている。

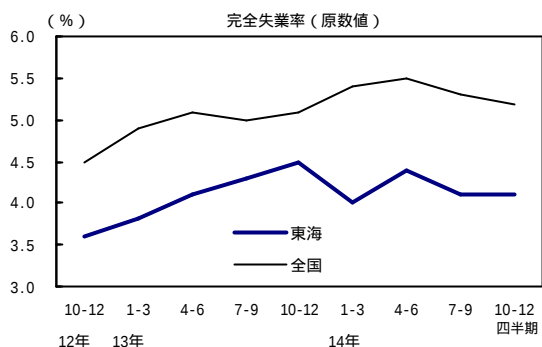
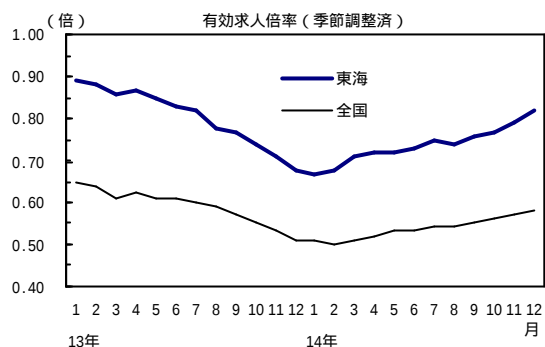


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月調査）[雇用関連（現状判断）]

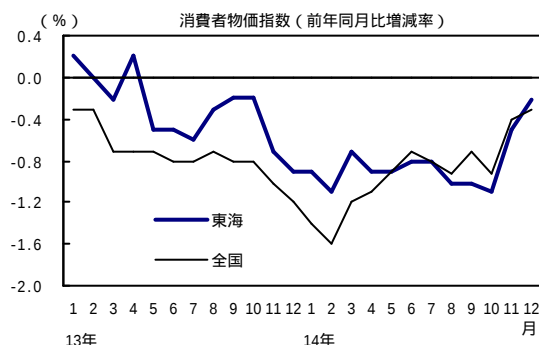
「新規求人は前年並みに推移している。特に東海環状自動車道の建設が最盛期を迎え、建設土木の求人の良い影響を与えている。ただし年明けに倒産件数が増加しており、全体としては横ばいである（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	15年1月
倒産件数	460	466	471	417	176
(前年比)	11.9	▲8.1	2.8	▲13.1	21.4
負債総額	3,486	2,590	4,684	1,267	566
(前年比)	212.4	69.2	178.2	▲46.7	▲76.1



○ 景気ウォッチャー調査（1月調査）[合計D I（特徴的な判断理由）]

<現状>

・自動車関連企業の採用意欲はおう盛だが、充足感が始めている。電気電子系では技術者の求人は多いが求職者が不足しており、求職者の多い事務系では求人が少なく、採用者数は伸びていない（民間職業紹介機関）。

<先行き>

・イラク情勢や北朝鮮問題等への不安で旅行控えが見られる（旅行代理店）。

